

# 「歴史編上」目次

口絵 「真田信繁(幸村)書状」「有孔土製円板」「金の耳環・銀の耳環」「牧寄遺跡の柱の根」「石棒」「保福寺峠の万葉碑」

「平馬沢出土の古銭」「橋爪氏の画いた解剖図」「日吉神社の雨乞行列」「宝曆の百姓一揆(版画)」

発刊のことば……………青木村村長 宮原 毅

監修のことば……………監 修 者 黒坂周平

例 言

## 第一章 原始時代の青木村

第一節 はじめに……………1

弘法の石芋 はやかった圃場整備

第二節 旧石器時代と青木村……………3

地球の歴史と旧石器時代

林口遺跡出土の石槍

第三節 青木村の縄文時代……………6

縄文土器の出現とうつりかわり

縄文時代のうつりかわり

湯の平出土の押型文土器

新発見の熟田遺跡 湯の平から中挟へ

ながく栄えた月夜平遺跡

第四節 縄文時代の住居と生活……………20

中挟遺跡の敷石住居跡 石鎌と石匙

立石遺跡の打製石斧

食料の加工と調理

磨製石斧と石錐 有孔土製円板と耳飾

中挟遺跡出土の石棒

縄文時代人の一年間の生活

縄文時代のおわり

第五節 弥生時代の青木村……………30

弥生文化の伝来 弥生文化のひろがり

弥生時代人のくらし 上小地方の弥生時代

青木村の弥生時代 壊滅した辻田遺跡

復元できた弥生土器



## 第二節 奈良・平安時代

上洞出土の磨製石鏃	
広く知られる月夜平遺跡	
期待される中村遺跡	弥生時代のまとめ
第六節 青木村内にある遺跡	37

## 第二章 古代の青木村

### 第一節 古墳時代

一 古墳時代の概観	57
古墳の定義	古墳の年代
土器の年代	古墳時代前期
古墳時代中期	古墳時代後期
二 上田小泉地方の古墳時代	59
古墳	集落遺跡
三 青木村の古墳	61
塚穴古墳の調査	環境
石室	出土遺物
	まとめ
四 古墳時代の青木村	70
古墳時代のムラ	
古墳時代のくらし	

一 上田・小泉地方の奈良・平安時代	74
大化改新前後の地方のようす	74
大化の改新以前の地方	
大化の改新以後の地方	

三 跡部郷と青木村	76
「倭名抄」と郷	小泉八郷と跡部郷

四 『日本靈異記』と青木村	80
『日本靈異記』	
他田舎人と他田氏	

五 東山道	84
古東山道	
令制東山道	

六 青木村を縦断する東山道	89
錦織駅から保福寺峠へ	
保福寺峠から追分へ	
二筋に分かれる東山道	
一遍水回りの推定東山道	
下奈良本から中挟地籍へ	
中挟地籍から浦野駅へ	
浦野駅から信濃国分寺へ	

七 岡石遺跡（推定浦野駅）の発掘	98
遺跡の環境	発掘調査
検出された遺構と遺物	調査のまとめ

八 信濃国府と国分寺	109
小泉郡内にあった国府	
松本に移った国府	

国分寺の建立と信濃国分寺	
九 塩原 牧	113

放牧の始まりと国牧  
信濃の御牧と小県郡

塩原牧と青木村 塩原牧の規模

牧にあう自然条件と付属施設

牧寄遺跡の発掘 調査に至る経過

遺跡の環境 発掘調査

発見された遺構と建物

調査のまとめ

「塩原」の名が見える古文書

縮小した鎌倉時代の塩原牧

十 奈良・平安時代のくらし	127
---------------	-----

竪穴住居の構造

生活用具の移り変わり

十一 『万葉集』と青木村	128
--------------	-----

十二 推定東山道跡の発掘調査	130
----------------	-----

発掘調査までの経過

A地区の発掘調査の結果と考察

B地区の発掘調査の結果と考察

石列のまとめとその考察 拡張部について

道路断面図の考察 まとめ

〈資料〉青木村考古関係地名表

## 第三章 中世の青木村

### 第一節 中世の開幕

一 祢津氏と保元の乱	139
------------	-----

『保元物語』の祢津氏 保元の乱

平治の乱と平氏の台頭

保元・平治の乱が意味するもの

二 木曾義仲の挙兵と浦野氏	143
---------------	-----

以仁王の令旨と木曾義仲

木曾義仲の進攻と浦野氏

三 源頼朝と後白河法皇	145
-------------	-----

鎌倉に武家政権が誕生

源頼朝と後白河法皇

### 第二節 鎌倉時代

一 浦野庄	148
-------	-----

浦野庄名目の初見 庄園

青木村は浦野庄の内 日吉社領

尊長法印の所領讓状案

尊長法印と浦野庄

西山宮道覚法親王 日吉社社領注進記

二 浦野氏	158
-------	-----

浦野氏の祖 浦野三郎貞信

承久合戦と浦野氏

田中光氏の娘浦野氏へ嫁ぐ

六条八幡宮造宮注文 浦野三郎跡

浦野氏居館と当初の開発所領

三 浦野庄と諏訪上社の関係	166
---------------	-----

諏訪上社と信濃の御家人

諏訪上社四の御柱造宮の役



四 大法寺三重塔の造立 ..... 167  
 大法寺三重塔の造立

第三節 南北朝時代

一 反尊氏・反幕府の滋野一族 ..... 170  
 南北朝の内乱 中先代の乱と滋野一族  
 観応の擾乱と滋野一族  
 浦野勘解由左衛門尉

二 郷村のできごと ..... 175  
 暦応四年の五輪塔地輪  
 村松の宝篋印塔 古龍泉寺と奈良本郷

三 浦野庄西馬越郷半分の抑留 ..... 179  
 足利尊氏寄進状 西馬越郷の押領者は  
 浦野田沢の諏訪上社神使御頭

四 神使御頭の「守矢文書」 ..... 181  
 田沢郷と田沢氏

第四節 室町時代

一 大塔合戦 ..... 184  
 大塔合戦の起因  
 合戦の経過と浦野式部丞

二 塩原・田沢・奈良本氏の神使御頭 ..... 186  
 神使御頭の記録 塩原氏  
 田沢氏と奈良本氏

三 浦野氏と田沢・奈良本・塩原三氏の関係 ..... 188  
 浦野氏は称津氏の代官  
 浦野氏と三氏との関係

四 古銭の出土と中世の銭 ..... 191  
 平馬沢出土の古銭 横手出土の古銭  
 出土古銭の比較 中世の銭 なぜ埋めたのか

第五節 戦国時代

一 村上系福沢氏の知行 ..... 199  
 戦国時代  
 福沢顕昌 伊勢神宮への寄進状  
 三者連合軍の海野攻め  
 浦野三頭の神使御頭記録

二 武田氏支配の時代 ..... 201  
 (一) 村上氏の没落  
 葛尾城・塩田城の落城  
 武田信玄の支配  
 史料には浦野氏ばかり  
 起請文の浦野氏一族  
 上野国に所領を得た浦野氏  
 浦野弥三と浦野豊前守  
 三遠地方城番の浦野氏

(二) 負担  
 軍役 普請役と岡城

三 戦乱の世の祈り ..... 212  
 高野山の蓮華定院 殿戸の山王宮再建  
 才応総芸禪師東昌寺を開く  
 諏訪上社御柱造宮役

第六節 戦国時代末期における真田氏と青木村 ..... 218



飯島宗心と真田氏  
 烏帽子形城の戦と真田氏  
 真田氏の出城冠者が嶽の戦  
 石川玄蕃頭康長の滞陣  
 村松殿と小山田老岐守茂誠  
 村松殿と真田信繁(幸村)  
 小山田茂誠と真田信繁

第七節 中世の城館跡

一 館跡……………227

細谷中村の館跡 当郷横手の館跡  
 村松の館跡 田沢馬場の館跡  
 立谷館跡と乗城跡 下奈良本の館跡  
 入奈良本内城館跡と山の屋敷跡  
 陣ヶ屋敷跡

二 城跡……………248

平城跡 子檀嶺岳城跡  
 二場城跡 黒丸城跡  
 飯繩山城跡 東の城跡  
 薄ヶ尾城跡 寺山砦跡  
 荒屋城跡と上平 城山跡  
 まちごや跡・かやしり

第八節 青木村の開発……………273

天正六年清書帳と明治八年の比較  
 当郷芹田付近の条の遺構  
 柿ノ木堰と数下堰の新旧

第四章 近世の青木村

阿鳥川の水による開発  
 田沢川と湯川による開発  
 下・入奈良本・杓掛の開発  
 夫神村の開発 殿戸の開発  
 開発のまとめ

第一節 浦野組

一 領主と村……………287

領主の変遷 治政のようす

二 村の組織……………292

庄屋 五人組

第二節 農村のくらし

一 人口・戸数の変化……………299

宗門御改帳 旦那寺  
 村別にみた戸口の推移  
 年齢別人口構成の推移  
 家族構成の推移

二 婚姻と死亡……………309

通婚圏と婚姻年齢  
 死亡数と平均年齢

三 衣・食・住……………313

村人の衣料 食生活  
 住居

四 田畑の耕作……………319

(一) 稲作 田の手入れ 稲の品種

田ごやし

(二) 畑作 畑作物の種類

麦作 他の作物 換金作物

五 生業……………325

(一) 養蚕

宝永差出帳にみる養蚕

桑畑の開発 蚕種商い

(二) 紙漉き

盛んだった製紙

仲間の申し合わせ

六 開発……………331

(一) 堰の開発

発達していた用水堰

(二) 切り起こし

山野の開墾

切り添え・起こし返し

七 取り締まりと警備……………334

(一) 取り締まり

儉約の触書

博奕の禁止と風紀の肅正

(二) 多かつた火事

出火・焼失の状況

焼失家屋の規模

出火の原因

焼失後の処理

第三節 検地と貫高制

一 上田藩の貫高制の特色……………340

貫高制とは 上田藩の貫高制

二 真田氏時代の貫高制……………342

上田領における貫高制の成立

上田領の太閤検地

昌幸・幸村の戦力の背景

信之時代の貫高制

入下の持つ意味 中世的遺制が残る

三 仙石氏時代の貫高制と検地……………350

貫高・石高の併用

貫高制下の年貢賦課

本貫高存続の意味するもの

真田じたてが残る 貫價しの考察

農民の主体制による検地

四 承応の貫高帳……………358

貫高表示の検地名寄帳

五 承応の貫高帳による年貢賦課……………361

定代をきめる 貫高と石高との関係

仙石氏時代の貫高制の特質

六 松平氏時代の貫高制……………363

『小泉郡年表』の語るもの 薄地高貫地の増大

藩側の対策 幕末の貫高制

入田沢村の吏態 貫高制存続の意義

第四節 松平氏支配時代の貢租

一 宝永三年差出帳……………370

差出帳の語る村の明細

小物成 浮役 夫役



二 免状の変遷……………376

仙石氏時代の免状

(寛永十五年夫神村免状 宝永二年夫神村免状)

松平氏時代の免状

(宝永七年夫神村免状 宝暦十三年夫神村免状)

三 免状にみる本年貢の推移……………381

夫神村の場合 村松郷の場合

本年貢は確かに減少している

四 幕末期の年貢上納の実態……………385

本年貢の実態 夫銭の実態

調達金の納入

### 第五節 山野の利用と山論

一 入会山……………390

山野の利用の様子

○入会山○御林○百姓林

入り組んだ入会関係

入会山の概況

○田沢山○香掛山○奈良本山○その他

入会の慣行

御林と農民 百姓林

二 山論……………396

刈敷山をめぐる争い

田沢山の山論

### 第六節 交通

一 東山道から保福寺道へ……………400

二 東山道 保福寺道……………402

その他の往還……………

塩田・内村への道

東筑摩への道 善光寺道

三 宿駅の発達……………404

宿駅の整備

人馬・物資の輸送

市之沢の性格と役割

四 中馬の発達と間道……………407

中馬 明和の中馬裁許

安曇郡小谷・大町の荷

五 助郷……………410

課役としての助郷

(一) 浦野・上田宿への定助郷

浦野宿への助郷

上田宿への助郷

(二) 和田宿の当分助郷

助郷嘆願 勤めの実態

和宮御降嫁の大通行

追川橋組合

六 庶民の旅……………418

往来手形 村継ぎ送り

行き倒れ・病死

### 第七節 水利と災害

一 水利慣行……………424

近世の用水堰

用水堰の普請



二 災害とその対策	428
水害	飢饉の救済

## 第八節 教 育

一 寺子屋の教育	433
私塾・寺子屋	寺子屋での学習
寺子の入門	定書

## 第五章 青木村の義民

第一節 神に祀られた義民たち	439
青木村にみる義民の伝統	

一 天和の義民増田与兵衛	440
与兵衛明神とその伝承	
史料の語る祭祀の経過	

二 享保の義民平林新七	441
新七稲荷とその伝承	
史料の語るもの	

三 宝曆騒動の義民	444
最初的全藩惣百姓一揆	
農民側の勝利	
義民半平と浅之丞	

四 文化の義民堀内勇吉	449
勇吉宮	

五 世直しの発頭九良右衛門	453
---------------	-----

チャラ金騒動	民の手による世直し
首謀者九良右衛門	

## 第二節 百姓一揆と義民の伝統

はじめに

一 与兵衛明神の成立過程	456
宝曆九年の意味するもの	
祭りの場で一揆の準備	

二 新七稲荷の成立過程	458
宝曆騒動の直後に祀る	
伝統精神の高揚	

三 義民の伝統の形成と継承	459
義民の伝統の形成	宝曆・明和期の意義
五つの一揆の相互関係	

## 第三節 百姓一揆多発の社会背景

一 青木村の地域特性	463
差出帳の語るもの	紙漕がさかんな地域
明治の村誌との比較	

二 百姓一揆多発の社会的経済的背景の考察	466
差出帳と村誌からみた特色	
水呑百姓の実態	ふところの深い山村の経済
開かれた山村	

## 第四節 上田藩宝曆騒動の史料

一 宝曆騒動の史料	471
(付) 首謀者・指導者・犠牲者をめぐる複雑な人間模様	



典型的な全藩惣百姓一揆 史料の分類  
宝曆騒動の史料解説

二 新史料の語るもの……………479

騒動の首謀者はだれか 夫神村の内情

三 義民の背後にみる複雑な人間関係……………483

飯田藩の千人講の場合

安永の中野騒動の場合

## 第六章 神社・寺院・修験の寺・医家

第一節 神社……………489

子檀嶺神社 豊受皇大神宮

第二節 寺院……………495

大法寺 瀧仙寺

第三節 修験の寺……………499

修験道と修験 若宮坊

第四節 医家……………502

近世の医療 古医方の大家橋爪氏

あとがき……………505

青木村誌「歴史編上」関係者……………507

・刊行関係・執筆関係  
・事務局  
・編纂室